

千年の森便り No.270

2021.7.28

ちば千年の森をつくる会

<http://sfuku.cloudfree.jp/>

代表 福島成樹

sennennomori@hotmail.co.jp

活動の記録

7月20日（月祝）天候 晴れ時々曇り

元中央博物館の吹春先生と奥様、神奈川県から中島先生を講師にお招きし、公開行事として夏のかのこ観察会を行いました。梅雨が明け、千葉県では熱中症警戒アラートが出ている状況でしたが、ご参加いただいたみなさんの熱心な探索により多くのきのこを観察することができました。

参加者は、講師3名、一般参加22名、会員が、伊藤、鶴沢、片野、木村、坂本、福島の6名、合わせて31名でした。坂本さんからは、参加者へのお土産にじゃがいもとナスをいただきました。ごちそうさまでした！

次回の活動日は8月16日（日）、相対照度調査、ヒメコマツ植栽地の下刈り、植生保護柵設置補修、危険木伐採等を予定しています。体験参加も大歓迎です。秋のかのこ観察会は10月12日（月祝）です！（福島）



〇きのかのこ観察会の様子



豊英島の駐車場は満車



吊り橋は順番に



吊り橋を渡り豊英島へ



千年広場に集まり観察会スタート



きのこを見つけて記念写真



広場では会場設営



ホウロクタケ



ツチカブリ



コウモリタケ



ハナガサイグチ？



きのこが集まりました



講師によるきのこの解説

○吹春講師による軟らかいきのこの解説

千葉県で見られる代表的なきのこを、主に胞子の色で分けた資料の順に沿って吹春講師に解説していただきました。

ベニタケの仲間はブナ科のどんぐりの森で 5 割くらい優占する重要なきのこ。種類が多く名前がつくのは特徴的なものだけ。乳液が出るラクタリウス(チチタケ属)と、乳液が出ないルスラ(ベニタケ属)がある。きのこは細長い細胞があって縦に裂けるものが多く、シャキシャキした食感があるが、ベニタケの仲間は丸い細胞が多くポロポロした食感になり、きのこも実際にポロポロとどの方向からでも裂けやすい。これがベニタケの仲間の大きな特徴。クロハツは、ヒダが疎で赤く変色し、その後黒くなる。よく似た猛毒のニセクロハツは赤くなったままで黒くならない。ニセクロハツは、千葉では採れていない。食べられるものとしてチチタケが採れた。ツチカブリの白い乳液は舐めるとヒリヒリする。オキナクサハツはアジアのシイカシ林を中心に分布するきのこ。

ヒラタケ形をしているが、サルノコシカケに類縁が近いカワキタケが採れた。裂いてみると肉が強靱な点がカワキタケ属の特徴。

ヌメリガサの仲間ではアカヤマタケ(の近縁種)が採れた。すでに色が黒っぽくなっているが、ヒダがロウ質で厚いのがアカヤマタケ属の特徴。

キシメジの仲間では、ヒダが粗くカサが緑色を帯びるミネシメジ(食用)、以前は名前がつかなかったオオニガシメジ(ヒダが密で肉は強靱、味は苦い)がたくさん採れた。

テングタケの仲間では、カサに条線が見られ内被膜(つば)を欠く広義のツルタケ(ツルタケというきのこはなくなってしまいました)、猛毒のフクロツルタケ、猛毒と言われているが死んだ人はいないというコテングタケモドキ、カバイロツルタケ、ヘビキノコモドキ、カブラテングタケと、ドクツルタケに似た不明種(図鑑に掲載されているドクツルタケは標高の高い針葉樹林に出るが、関東の低地の広葉樹林にみられるドクツルタケと呼ばれているものは未記載のものらしい)が採れた。

イグチの仲間では、キニガイグチ(管孔が垂生、苦くない)がたくさん採れた。ほかにも、ニガイグチモドキ(管孔は肌色で「孔口」が明瞭な紫色)、キアミアシイグチ、キイロイグチ、オニイグチの仲間、橙色の派手なハナガサイグチ(当日、ダイダイイグチとしたのは誤りとのこと)、キヒダタケ(カサの裏がヒダ)が採れた。

最後に豊英島の森の特徴について、ここではトサノクロムヨウラン、ヒナノシャクジョウ、ツチアケビなど、光合成をせずに菌から栄養をもらっている植物がたくさん見られることから、菌類と植物がうまく共生している豊かな森であるというお話がありました。(福島)



○中島講師による硬いきのこの解説

中島講師からは、最近の DNA による菌類の分類は以前の分類とは全然違うこと、硬質菌類(硬いきのこ)とかヒダナシタケという呼び方は日本的で、海外ではそのような分け方はしないこと、日本の硬いきのこに名前が付きやすいのは、DNA を使った現代的な研究が追い付いていないため(今後、肉眼では簡単に名前が付けられない種が増えていくのは確実)、などのお話がありました。

初めに担子菌について、胞子を自ら風で飛ばさない腹菌類には、丸い形をしていて衝撃を受けると胞子を飛ばすホコリタケの仲間、臭いを出して虫に胞子を運んでもらうキツネノロウソクなどがあり、ノウタケもこの仲間。ホ



ウキタケの仲間は名前が付けられない。コウモリタケ、クジラタケが採れたが、どこがコウモリやクジラなのか名前の由来はよく分からない。オオミダレアミタケは、熱帯のきのこで君津市と市原市だけで記録されているが、最近、未発表だが神奈川県でも見つかっている。硬いきのこは地味な色が多いが、ヒイロタケは珍しく色鮮やかで染色にも使われる。カワラタケは世界で一番多く記録されているきのこで、実は複数の種が含まれているらしい。ケロウジは横浜では見られないきのこ。アセハリタケやアミヒカリタケなどは熱帯性のきのこで、以前はレアだったが、今は普通に見られるようになってきた。これには、地球温暖化が影響している可能性がある。

次に子囊菌について、子囊菌はカビが大半を占めている。きのこカビの違いは大きさで、大きいものはきのこ、小さいものはカビとして分けられている。ということで、きのこが好きな人は、カビも好きじゃないといけません。今回は、ニセキンカクアカビョウタケ、クロコブタケ、コッコミクス（ツバキの葉に付いた黒い粒）、イモッティア（日本では正式な記録がないアカコブタケの上に出るきのこ）、セパドニウム（イグチに出るカビ）、オオミコブタケ（ナラ枯れの木の根株を腐朽させるきのこ）などの子囊菌類が採取されました。

個人的に驚いたのは、オオミコブタケのアナモルフ（無性世代）です。オオミコブタケは黒いツブツブと思っていたら、夏の姿（アナモルフ）は白いんですね。大変勉強になりました。（福島）

中島講師に作成していただいた観察リストは6ページに掲載してあります。

中島講師の観察記録（iNaturalist）はこちら↓、写真もあります。

https://www.inaturalist.org/observations?q=Toyofusa202607&search_on=tags

〇森の中で過ごす時間は気持ちが良い（山田光哉さま）

- ・子供たちが森の中できのこ、植物、虫を探すことに大喜びでした。
 - ・きのこ好きの子供が、初めて見るきのこに興奮していました。
 - ・吹春先生、中島先生の解説を目の前でじっくり聞くことができ、大満足でした。お二方の本を日頃から読んでいた子供が嬉しそうでした。
 - ・豊英島が存在を知らなかったが、きのこ観察を通じて守られている森を体感でき貴重な経験になった。
 - ・ちば千年の森をつくる会の皆様の活動に触れることができ、また参加者の方々との話も勉強になりました。
 - ・きのこや植物から見る森の特長、また温暖化や自然環境の変化など学びが多かった。
 - ・森の中で過ごすあの時間は気持ちが良いし、貴重だと感じた。
- 予定があれば、秋のきのこ観察会にも参加させていただきたいと思っています。



みんなできのこ探し



ヘラを使ってきのこ採取

〇3歳の娘さんと参加（成田満里奈さま）

3歳の子供が突然きのこに夢中になり、近所の公園へ通っては、わずかなきのこを見つけて観察する日々を過ごしていました。「もっとたくさんのきのこを実際に見せてあげたい」という思いから、今回参加させていただきました。体力的なこともあり最後まで参加することはできませんでしたが、「楽しかった！」という思い出がしっかり心に残ったようです。親の私たちにとっても、普段なかなか経験できない貴重な体験となりました。素敵な観察会を開催してくださり、本当にありがとうございました。



〇コウモリタケの群生を見つけることができてうれしかった（桜田ゆかりさま）

昨年 10 月に引き続き、神奈川新治グループは中島淳志講師に連れて来ていただき、きのこ観察会に参加させていただきました。数日前に大雨が降った島内は湿り気もあり、秋に比べればきのこの数は多くないとはいえ、あちこちで立派なオオニガシメジやキニガイグチが発生しており、何種類かのテングタケやベニタケ類、オニイグチの仲間、様々な硬質菌など結構な種類のきのこが見つかりました。コウモリタケの群生を見つけることができてうれしかったです。キニガイグチは、神奈川の観察会ではあまり見つからないように思います。また、葉緑素を持たず菌類に寄生して生活するトサノクロムヨウランやヒナノシャクジョウの可憐な花も見つけました。吹春先生、奥さま、中島先生、わかりやすく興味深いお話をありがとうございました。



ヒナノシャクジョウ

蒸し暑さで同定会ではちょっとだけバテ気味になりましたが、会のみなさまのおかげさまで楽しく貴重な体験をさせていただきました。ありがとうございました。

〇はじめて参加させていただきました（栗原幸利さま）

作法もわからず、終始先生の後ろをついて回るばかりでしたが、豊英島へ向かう吊り橋のアプローチからワクワクしっぱなしの一日。表象としてのキノコを介して、土地を下支える菌の世界の解像度が少し上がった感覚。おっきな収穫です。次の機会も楽しみにしています。

〇ヒナノシャクジョウとの出会い

7 月 20 日、厳しい暑さの中、ちば千年の森をつくる会のきのこ観察会を開催しました。当日はさまざまなきのこに出会うことができましたが、植物として皆さんの関心を集めたのは、参加者のお一人が見つけてくださった「ヒナノシャクジョウ」でした。



みんなでヒナノシャクジョウを観察



ヒナノシャクジョウ

ヒナノシャクジョウは、高さ数センチほどしかない非常に小さな植物で、落ち葉の

間にひっそりと姿を現します。葉緑素を持たないため自ら光合成を行わず、土の中の菌類から栄養を得て生きる「菌従属栄養植物」の仲間です。そのため、豊かな森林環境が保たれていなければ生育できず、森の健全さを示す存在ともいわれています。

あまりの小ささに、説明を受けても見つけるのに苦労するほどで、うっかりすると踏みつけてしまいそうでした。参加者の中には「こんな植物があるとは知らなかった」と驚く声も聞かれ、一生に一度見られるかどうかという貴重な出会いに、皆さん熱心に観察していました。

また、きのこ観察会に先立ち、坂本さんが自家菜園で丹精込めて育てたジャガイモを参加者の皆さんに配布してくださいました。歩くだけで汗がしたたり落ちるような暑さでしたが、ジャガイモの贈り物にも皆さんの笑顔が広がり、心温まる一日となりました。（片野）

○あれもこれもウチワタケ

島内の至る所に放置された倒木は木材腐朽菌のご馳走ですから、ナラ枯れ病や台風は彼らの大宴会場を提供したともいえます。耳を澄ませば菌糸が木材をむさぼり食う音が聞こえるような気がします。

今回採集して持ち寄った硬いきのこは色々ありましたが、先生方による同定の結果、大部分がウチワタケの山に仕分けされました。薄褐色から黒に近い褐色まで変化の幅が広くて、同じ種とは思えない程のバラエティーです。地味ながら綺麗な縞模様ですから、型抜きでもして貝殻細工のようなアクセサリーに利用してくれる人はいないかなと思いました。材料はいくらでも提供できます。(坂本)



お知らせ

○次回の定例活動は 8 月 16 日（日）です

相対照度調査、ヒメコマツ植栽地の下刈り、植生保護柵設置補修、危険木伐採等を予定しています。

刈り払い機、鎌等をお持ちください。

熱中症対策、ヤマビル・ダニ対策、ヘルメット着用をお願いします。体験参加大歓迎です。

○中島淳志講師からのお知らせ

8 月 5 日にメイツ出版から、私が執筆した

『**みんなが知りたい! 「きのこ」のひみつ ふしぎな色や形のなぞにせまる**』

という本が出ます。

「きのこの名前を教える本」はこれまでたくさんありましたが、この本は「きのこの名前の調べ方を学ぶ本」というコンセプトで、児童書の皮を被った濃密な内容の本ですので、きのこ好きの大人の方にも楽しんでいただけたと思います。

ご興味があればぜひお手にとってみてください。

<https://www.hanmoto.com/bd/isbn/9784780431766>

中島講師に作成していただいた観察リスト

No	和名	学名	門	亜門	綱	目	科	属
1	アオカビ属	<i>Penicillium</i>	子囊菌門	チャフンタケ亜門	ユーロチウム綱	ユーロチウム目	コウジカビ科	アオカビ属
2	アオモシホコリ	<i>Physarum viride</i>			変形菌綱	モシホコリ目	モシホコリ科	モシホコリ属
3	アカヤマタケ属	<i>Hygrocybe</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	ハラタケ目	ヌメリガサ科	アカヤマタケ属
4	アケボトウツルタケ	<i>Amanita pallidorosea</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	ハラタケ目	テングタケ科	テングタケ属
5	アシナガイグチ	<i>Boletellopsis elata</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	イグチ目		Boletellopsis属
6	アセタケ科	<i>Inocybeaceae</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	ハラタケ目	アセタケ科	
7	アセハリタケ	<i>Donkia pulcherrima</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	タマショレイタケ目	マクワタケ科	Donkia属
8	アナタケ	<i>Xylodon flaviporus</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	タバコウロコタケ目	アナタケ科	Xylodon属
9	アミスギタケ	<i>Lentinus arcularius</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	タマショレイタケ目	タマショレイタケ科	ケガタケ属
10	イグチ科	<i>Boletaceae</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	イグチ目	イグチ科	
11	イボタケ属	<i>Thelephora</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	イボタケ目	イボタケ科	イボタケ属
12	イボタケ属	<i>Thelephora</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	イボタケ目	イボタケ科	イボタケ属
13	イモディヤ・アトログラナ	<i>Immotthia atrograna</i>	子囊菌門	チャフンタケ亜門	クロイボタケ綱	プレオスボラ目	Rousssoellaceae	Immotthia属
14	ウスタケ	<i>Turbinellus floccosus</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	ラッパタケ目	ラッパタケ科	ウスタケ属
15	ウチワタケ	<i>Microporus affinis</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	タマショレイタケ目	タマショレイタケ科	ツヤウチワタケ属
16	オオゴムタケ	<i>Trichaleurina tenuispora</i>	子囊菌門	チャフンタケ亜門	チャフンタケ綱	チャフンタケ目	キリノミタケ科	トリカレウリナ属
17	オオニガシメジ	<i>Tricholoma acerbum</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	ハラタケ目	キシメジ科	キシメジ属
18	オオニコブタケ	<i>Kretzschmaria deusta</i>	子囊菌門	チャフンタケ亜門	フタマダ綱	クロサイワイタケ目	トクサワコブタケ科	トクサワコブタケ属
19	オキナグサハツ	<i>Russula senecis</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	ベニタケ目	ベニタケ科	ベニタケ属
20	オシロイタケ	<i>Tyromyces chioneus</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	タマショレイタケ目	インクラストボリア科	オシロイタケ属
21	オニイグチ属	<i>Strobilomyces</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	イグチ目	イグチ科	オニイグチ属
22	カバイロツルタケ (広義)	<i>Amanita fulva</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	ハラタケ目	テングタケ科	テングタケ属
23	カブラテングタケ	<i>Amanita gymnopus</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	ハラタケ目	テングタケ科	テングタケ属
24	カワキタケ属	<i>Panus</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	タマショレイタケ目	カワキタケ科	カワキタケ属
25	カラウラタケ	<i>Trametes versicolor</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	タマショレイタケ目	タマショレイタケ科	シロアマタケ属
26	キアミアシイグチ	<i>Retiboletus ornatipes</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	イグチ目	イグチ科	キアミアシイグチ属
27	キイロイグチ	<i>Pulveroboletus ravenelii</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	イグチ目	イグチ科	キイロイグチ属
28	キシフタケ	<i>Pseudomerulius aureus</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	イグチ目	イチョウタケ科	キシフタケ属
29	キニガイグチ	<i>Tylophilus balloui</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	イグチ目	イグチ科	ニガイグチ属
30	キヒモカワタケモドキ	<i>Rhizochaete radicata</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	タマショレイタケ目	マクワタケ科	ヒモカワタケ属
31	クジラタケ	<i>Trametes orientalis</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	タマショレイタケ目	タマショレイタケ科	シロアマタケ属
32	クロイタタケ属	<i>Biscogniauxia</i>	子囊菌門	チャフンタケ亜門	フタマダ綱	クロサイワイタケ目	グラフォストロマ科	クロイタタケ属
33	クロコブタケ	<i>Annulohyphoxylon truncatum</i>	子囊菌門	チャフンタケ亜門	フタマダ綱	クロサイワイタケ目	アカボクシタケ科	Annulohyphoxylon属
34	ケシワウロコタケ	<i>Punctularia strigosozonata</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	コウヤクタケ目	コウヤクタケ科	ケシワウロコタケ属
35	ケホコリ科	<i>Trichiaceae</i>			変形菌綱	ケホコリ目	ケホコリ科	
36	コウモリタケ	<i>Polypus dispansus</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	ベニタケ目	ニンギョウタケモドキ科	Polypus属
37	コガネハバコウヤクタケ	<i>Crustodontia chrysocreas</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	タマショレイタケ目	シワタケ科	コガネハバコウヤクタケ属
38	コングツタケモドキ	<i>Amanita pseudoporphyria</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	ハラタケ目	テングタケ科	テングタケ属
39	シマシノエド	<i>Mutinus boninensis</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	スッポンタケ目	スッポンタケ科	キツネノロソク属
40	シロコバウツ	<i>Russula albonigra</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	ベニタケ目	ベニタケ科	ベニタケ属
41	シジウチワタケモドキ	<i>Favolus acervatus</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	タマショレイタケ目	タマショレイタケ科	ファボルス属
42	ストロマトリネア属	<i>Stromatolinea</i>	子囊菌門	チャフンタケ亜門	フタマダ綱	クロサイワイタケ目	シトネタケ科	
43	タケ類てんく巣病菌	<i>Aciculosporium take</i>	子囊菌門	チャフンタケ亜門	フタマダ綱	ボタンタケ目	バクカキン科	Aciculosporium属
44	タバコウロコタケ科	<i>Hymenochaetaceae</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	タバコウロコタケ目	タバコウロコタケ科	
45	チチタケ属	<i>Lactifluus</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	ベニタケ目	ベニタケ科	チチタケ属
46	チャウロコタケ	<i>Stereum ostrea</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	ベニタケ目	ウロコタケ科	キウロコタケ属
47	チャフンタケ亜門	<i>Pezizomycotina</i>	チャフンタケ亜門					
48	チョークアナタケ	<i>Amyloporia xantha</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	タマショレイタケ目	Adustoporiaceae	Amyloporia属
49	ツチカワリ	<i>Lactifluus piperatus</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	ベニタケ目	ベニタケ科	ツチタケ属
50	ツノホコリ	<i>Ceratiomyxa fruticulosa</i>			ツノホコリ綱	ツノホコリ目	ツノホコリ科	ツノホコリ属
51	ツヤウチワタケモドキ	<i>Microporus longisporus</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	タマショレイタケ目	タマショレイタケ科	ツヤウチワタケ属
52	ツルタケ節	<i>Vaginatae</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	ハラタケ目	テングタケ科	テングタケ属
53	トリコデルマ属	<i>Trichoderma</i>	子囊菌門	チャフンタケ亜門	フタマダ綱	ボタンタケ目	ボタンタケ科	トリコデルマ属
54	ナヨタケ属	<i>Psathyrella</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	ハラタケ目	ナヨタケ科	ナヨタケ属
55	ネオイハリタケ属	<i>Hydnellum</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	イボタケ目	Boletopsidaceae	ネオイハリタケ属
56	ニガイグチモドキ	<i>Tylophilus neofelleus</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	イグチ目	イグチ科	ニガイグチ属
57	ニガイグチ属	<i>Tylophilus</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	イグチ目	イグチ科	ニガイグチ属
58	ニグロカンティナエ節	<i>Nigricantinae</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	ベニタケ目	ベニタケ科	ベニタケ属
59	ニセキンカクアカビョウタケ	<i>Dicophalospora rufocornea</i>	子囊菌門	チャフンタケ亜門	ズキンタケ綱	ヒョウタケ目	ヒョウタケ科	デイクワフスボラ属
60	ニッケイタケ	<i>Coltricia cinnamomea</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	タバコウロコタケ目	ニッケイタケ科	オウツンタケ属
61	ニワタケ	<i>Tapinella atrotomentosa</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	イグチ目	イチョウタケ科	イチョウタケ属
62	ネンドタケモドキ	<i>Fuscoporia setifera</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	タバコウロコタケ目	タバコウロコタケ科	サビアナタケ属
63	ノウタケ属	<i>Calvatia</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	ハラタケ目	ノウタケ科	ノウタケ属
64	バイブタケ	<i>Henningsomyces candidus</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	ハラタケ目	ボロレウム科	バイブタケ属
65	ハカワラタケ	<i>Trichaptum biforme</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	タバコウロコタケ目	シバハタケ科	シバハタケ属
66	ハナガサイグチ	<i>Aureoboletus auriflammeus</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	イグチ目	イグチ科	ヌメリコウジタケ属
67	ハラタケ目	<i>Agaricales</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	ハラタケ目		
68	ハラタケ目	<i>Agaricales</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	ハラタケ目		
69	ハラタケ目	<i>Agaricales</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	ハラタケ目		
70	ヒイロタケ	<i>Trametes coccinea</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	タマショレイタケ目	タマショレイタケ科	シロアマタケ属
71	ヒステランギウム属	<i>Hysterangium</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	ヒステランギウム目	ヒステランギウム科	ヒステランギウム属
72	ヒステリウム科	<i>Hysteriaceae</i>	子囊菌門	チャフンタケ亜門	クロイボタケ綱	モジカビ目	ヒステリウム科	
73	ヒビコウヤクタケ属	<i>Dendrothele</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	ハラタケ目	Cyphellopsidaceae	ヒビコウヤクタケ属
74	ヒボメクス属	<i>Hypomyces</i>	子囊菌門	チャフンタケ亜門	フタマダ綱	ボタンタケ目	ボタンタケ科	ヒボメクス属
75	ヒメシロウテナタケ	<i>Delicatula integrella</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	ハラタケ目	ヒメシロウテナタケ科	ヒメシロウテナタケ属
76	ヒメツチグリ属	<i>Geastrum</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	イグチ目	ツチグリ科	ヒメツチグリ属
77	ヒメカンタケ科	<i>Arthrobotryaceae</i>	子囊菌門	チャフンタケ亜門	オルビリア綱	オルビリア目	ヒメカンタケ科	
78	ヒモツキコメバタケ	<i>Etheirodon fimbriatum</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	タマショレイタケ目	ニクハリタケ科	Etheirodon属
79	フィロボリア・ラディキユローサ	<i>Fibroporia radiculosa</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	タマショレイタケ目	Fibroporiaceae	フィロボリア属
80	フウセンタケ科	<i>Cortinariaceae</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	ハラタケ目	フウセンタケ科	
81	フウセンタケ科	<i>Cortinariaceae</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	ハラタケ目	フウセンタケ科	
82	フクロツルタケ属	<i>Amidella</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	ハラタケ目	テングタケ科	テングタケ属
83	ブシログロニウム属	<i>Psilogonium</i>	子囊菌門	チャフンタケ亜門	クロイボタケ綱	モジカビ目	ヒステリウム科	
84	ブドウタケ	<i>Nigroporus vinosus</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	タマショレイタケ目	ニクハリタケ科	ブドウタケ属
85	ベニタケ属	<i>Russula</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	ベニタケ目	ベニタケ科	ベニタケ属
86	ヘビキノモドキ	<i>Amanita spissacea</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	ハラタケ目	テングタケ科	テングタケ属
87	ホウロウタケ	<i>Fomitopsis dickinsii</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	タマショレイタケ目	ツガサルノコシカケ科	ツガサルノコシカケ属
88	ホコリタケ属	<i>Lycoperdon</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	ハラタケ目	ホコリタケ科	ホコリタケ属
89	ミクサリウム属	<i>Myxarium</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	キララ目	ヒロリア科	ミクサリウム属
90	ミネシメジ	<i>Tricholoma saponaceum</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	ハラタケ目	キシメジ科	キシメジ属
91	モシホコリ属	<i>Physarum</i>			変形菌綱	モシホコリ目	モシホコリ科	モシホコリ属
92	モミジウロコタケ	<i>Xylobolus spectabilis</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	ベニタケ目	ウロコタケ科	カタウロコタケ属
93	ヤケイロコウヤクタケ属	<i>Scytinostroma</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	ベニタケ目	カワタケ科	ヤケイロコウヤクタケ属
94	ラッパタケ科	<i>Gomphaceae</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	ラッパタケ目	ラッパタケ科	
95	ラッパタケ科	<i>Gomphaceae</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	ラッパタケ目	ラッパタケ科	
96	リチズマ科	<i>Rhytismataceae</i>	子囊菌門	チャフンタケ亜門	ズキンタケ綱	リチズマ目		
97	リチズマ科	<i>Rhytismataceae</i>	子囊菌門	チャフンタケ亜門	ズキンタケ綱	リチズマ目		
98	リノカルボン属	<i>Linocarpon</i>	子囊菌門	チャフンタケ亜門	フタマダ綱	ケツスファエリア目	Linocarpaceae	
99	ロアノケンセス節	<i>Roanokenses</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	ハラタケ目	テングタケ科	テングタケ属
100	ウサビカレバタケ	<i>Collybiopsis peronata</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	ハラタケ目	ツキヨタケ科	Collybiopsis属
101	ウビタケ	<i>Hymenochaete cyclolamellata</i>	担子菌門	ハラタケ亜門	ハラタケ綱	タバコウロコタケ目	タバコウロコタケ科	タバコウロコタケ属
102	菌界	<i>Fungi</i>						